

2011年10月8日/9日

アート緑日 おかげさまで盛況開催

2011年(昨年)の10月8日と9日、20回めのアート緑日(アート緑日20)が開催されました。会場をポートサイド公園から、橋本クリエーションスクエア1階アトリウムと建物周辺の公開空地、コンカード横浜公園広場などに移して、はじめての開催となりましたが、例年同様たくさんのお客様を迎えることができました。会場を変更したことで、しっかりとした盛り込みのできるインドア・ブースから復讐るに出版ができるワゴンブース



まで、おなじみのテント・ブースだけでなく、いくつかの出展形式を選んでいただけるようになり、いつも増して「ラエティ」に留んだ出展者の方にお乗りいただくことができました。東日本大震災の被災地からも出展者の方を迎えることができ(ほんのささいな応援ですが、出展料を減免させていただきました)また全ブースにて、募金活動も行われました。(おしながき賞金東日本大震災プロジェクトへ寄付)。なによりも上々の天気、地区内からもたくさん来場いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

2011年11月19日/20日

歴史を語った 第2回 幸ヶ谷集会所写真展



今回は、昨年のごとになりますが、11月19日と20日、神奈川公園にある幸ヶ谷集会所で、第2回写真展が開催されました。集会所の自主事業として企画されたこの事業では地域で趣味の写真を撮られている方の作品だけでなく、地域の歴史を紹介する写真や図像、古地図などが多数展示されました。なかでも、広重の東海道五十三次に描かれた神奈川宿を現在の街並に探すレポートや、生業事件の痕跡を辿るレポートなどは往巻で多くの来場者の関心を誘っていました。

→右の写真は故・八木一朗さんが描かれた「大正初期神奈川七軒丁築地之図」(複製)七軒丁(町)は現在の栄町、台町のあたり。この町の商家に買った八木さんが幼少の記憶をたどって描かれたこの画は、現在、郷土記念資料館に収蔵されています。展示の複製画は地元の名所「本町寺」さんが所蔵されているもの、今回は特別の貸し出しとなり開催に華を添えていました。



2012年3月3日

A Little Bit Concert vol.5開催される



ご来場のみなさんと会場の様子も  
ご出演 島山茂(バス・バリトン) / 深田真美(ピアノ伴奏)

今回は、現役のオペラ歌手=島山茂さんをお迎えしての「歌を聴く」会。「赤い靴」「花嫁の月」「鏡月夜」など、おなじみの歌を聴かせていただいたり、歌劇の定番「ドン・ジョヴァンニ」の一幕をご披露いただいたり、まさにバス・バリトンを堪能する1時間になりました。ご自身も音楽家である深田真美さんの伴奏もすばらしく、少人数のコンサートならではの迫感で、観客のみなさんと演奏者が一体になり、あたたかいひと時をみんなで重ねていく。ヨコハマポートサイド地区ならではの「定席」として、これからも継続していきたいと考えています。



島山 茂

発行日:2012年3月9日  
場 所:ヨコハマポートサイド A&D コーポレーション事務局  
phone: 045-243-2012

UMIKAZE2012

M a r c h



ヨコハマポートサイド地区 ミニコミ紙

うみかぜ

特 集

権現山ってどこにあるの？

開催報告

アート緑日20

第2回 幸ヶ谷集会所 写真展

A Little Bit Concert vol.5

発行 所:ヨコハマポートサイド街づくり協議会

## 権現山ってどこにあるの？

現在は京急仲木駅近くにある熊野権現（神社）が、もともとここにあつて、それで「権現山」この神社の創建は白河上皇が院政をはじめた次の年＝1087年だったそうです。権現山を現在の「幸ヶ谷公園」と紹介している資料もありますが、公園あたりは権現山の一部ではあっても全ではなく、往時にはもっと規模の大きな丘陵だったようです。まずは江戸幕府が神奈川台場を築くために権現山北側から8、000坪分ともいわれる土砂を切り出し、それで山の北側がなくなってしまった。さらに明治に入って鉄道敷設のために、山をふたつに分断するような大規模な開削工事が行なわれ、権現山は半分姿を消してしまつた…

鉄道開通初期には、権現山の名称を記した地図もありますが、やがてはその名称も地図上からは消え、現在ではこの地に長く住む方にも、どこが権現山だったのか…明確に説明できる方はほとんどいらっしゃらないようです。



青木橋の上から東神奈川駅方面を

分たれた権現山

↑ 権現山は、明治の鉄道敷設のために開削され、現在の本覚寺側と幸ヶ谷公園側に分断されるような状態になってしまいました。江戸時代まで、権現山は上の写真の点線部のようにひとつの「緑地」を形成し、東海道はこの権現山を迂回するように、国道15号線側から、現在の宮前商店街通りを経て、台町方面へと繋がっていました。青木橋は鉄道開削のために分断されてしまった東海道をつなぎなおすために架橋されたものです。



幸ヶ谷公園から撮影した現在の様子

※ 右上の古写真は1871年（明治3年）に、当時の横浜で発行されていた外国人向け写真情報誌「フラー・イースト」に掲載されていた権現山開削工事の様子を伝える写真です。写真奥の右手に広がる海面は、現在の横浜駅西口方面、線路をはさんで左手側が東口あたりということになります。

## 鉄道敷設のための開削



幸ヶ谷公園にある 権現山合戦跡の説明板

後北条氏の初代＝早雲が関東官軍上杉氏を破って現在の横浜市に進出。ところが上杉氏に巻き返されて、現在の幸ヶ谷公園あたりに中心郭を置いていた権現山で合戦になったというのが「権現山合戦」です。城方が早雲側。裏切手が上杉勢で「その数は2万」という伝承もあります。激しい攻防の末、権現山は落城。一時このあたりも荒廃したようですが、後北条氏の支配が安定的になると、七宿者のひとりだった多米氏が人成。現在の本覚寺側に中心郭を移して「青木城」と呼ばれるようになっていたようです。しかしながら豊臣氏の小田原攻めとともに多米氏も滅亡。この城もいつしか廃墟になって、江戸時代にはすでにその遺構もあまいなものになっていたようです。

幸ヶ谷公園 今は桜の名所です。背景の建物はヨコハマポートサイド地区 こんなに 近所に… ホントにいい板です。



web-site "Affectionate Album" より

## ▼ 幕末が明治になったばかりの頃の台町



権現山を迂回するように江戸から南に向かって歩いてきた旅人が、当時は地蔵きになっていた青木橋あたりを渡って台町の坂に向かう。現在は上台橋に向かって続くこの坂道が、あの広重の絵に描かれた旧東海道です。今は（上台橋に向かうと）左手に遊園地のマンションや西口方面のビル群を眺めて歩くこととなりますが、当時はこれが砲臺の跡に見える砲臺跡。道に沿って茶屋、土産物屋、料亭が並び並ぶ一大繁華地（観光地）だったようです。



当時の神奈川 関門を写した写真 ▼



台町の坂を上ってしばらくすると「神奈川 関門跡」を示す碑と解説版があります。開国当初、攘夷運動などに乗る騒動事件の頻発から、各団領事が幕府に抗議。警備強化のために設置された関門のひとつがここにあったのだそうです。

## かつての東海道を体験する

この紙面に記載されている3点の古写真（幕末～明治初期）は、すべて長崎大学付属図書館電子化コレクションからお借りしたものです。ご協力に感謝し、ここに慎んで御礼申し上げます。 ▶ <http://www.lib.nagasaki-u.ac.jp/search/colle/>